

大野 岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年4月12日発行 文責 校長 中尾 聡彦

よろしくお祈いします

令和5年4月1日付人事異動により、伊万里市教育委員会から南波多郷学館に赴任いたしました「中尾聡彦(なかお あきひこ)」と申します。平成23年度から4年間、旧南波多小学校の教頭として勤務した経験があります。当時から、保護者や地域の方々の学校に対する温かいご支援を受けながら、子どもたちが生き生きと学ぶ理想的な学校であったことを思い出します。この長い時間をかけて南波多町が育ててこられた素晴らしい校風を引き継ぎながら、子どもたちが「喜んで登校し、満足して下校する学校」を目指してまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお祈いいたします。

南波多郷学館の教育目標は、

ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

です。

始業式では、まず、南波多町のことを学んで、好きになってほしい。そして、自分の「夢」の実現のために努力してほしいと話しました。「夢」と出会うことは、学校生活を豊かにしてくれます。そして、今年は、コロナ禍の中でこれまでできなかったことや我慢していたことができるようになることから、失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジしようと呼びかけました。全職員で、チャレンジし、努力し続ける子どもたちを応援していきたいと思っています。

「何のために学ぶのか？」と「夢と出会い、夢に向かう！」

「何のために学ぶ？」という問いに対して、みなさんはどのように答えられるでしょうか？私は、小中学生のころに「大人になって困らないように！」と言われたことを覚えています。しかし、この答えは、未来のことが想像もできない私にとって納得のいく答えではありませんでした。ここ数年の調査において、家庭学習時間が一日に30分以下という中学生が増えてきています。この数字は、「学ぶ」ことに意義を感じていないことを表しているようにも思います。「学ぶ」という作業には「努力」が伴います。その「努力」が、自分の夢や憧れに対する努力であればどうでしょうか。私が、学校経営の大きな柱として考えているのは、「子どもたちが、『夢』と出会い、『夢』に向かう学校」です。これからを生きる子どもたちには、これまでに出会ったことのない人や考え方と出会うことが大事だと思います。例えば、本物の演奏家と出会ったとします。その出会いを通して、憧れや尊敬の気持ちが芽生えると思います。その心の動きは、自分の生活を潤わせ、自分の「夢」や「憧れ」に向かうエネルギーになるのではないかと考えます。このことが「何のために学ぶ？」のエネルギーになるとしたら、子どもたちの「学び」や「努力」に対する姿勢が変わっていくのではないかと考えています。「夢」に向かう中で失敗したり、くじけたりすることがあるでしょう。失敗を恐れずに、どんどん失敗したり、くじけたりすることができる場所が学校なのではないかとも思います。

祝 令和 5 年度伊万里市立南波多郷学館入学式

本日(4/12)、新一年生 14 名を迎え、173 名のすべての児童生徒がそろいました。
これから、どんな学校生活が待っているのでしょうか？ワクワクドキドキですね。

地域の支援も日本一！～朝の交通立哨指導～

前期課程の1～6年生、そして新しい制服に身を包んだ7年生、この学校のリーダーであるステージ3の8・9年生が登校する風景を新鮮な気持ちで見えています。さらには、朝から地域の方々が交通立哨指導に立っていただき、子どもたち一人一人にあいさつをいただいています。「地域の子どもは地域で育てる」といいますが、その言葉を間近で見ながら感動しています。

南波多郷学館は「あいさつ返事日本一！」を目指していますが、地域の学校に対する温かい支援は、すでに日本一ではないかと思います。